長坂 常「半建築」～「半建築」って何?「長坂常」ってどんな人?～

●講演者:長坂 常 氏 ●開催日:2024年 1月 27日 ●会場:アスト津／アストホール

講演のレポートを依頼されたものの、なかなかうまく筆が進まない。ひとまず「半建築」の書籍を拝読し、ひと通り再確認したところであらためて原稿に向かうものの、なかなか表現が難しい。締切りが迫って焦りつつも落ち着いて考えてみると、それこそが「半建築」というキーワードであり、「長坂常」というクリエイターの世界観のような気がしています。

“建築と家具の間”というのが当初の「半建築」の意味とのことですが、「半分完成、つまり未完成」と捉えられることも、言葉の響きから「反建築」というニュアンスで感覚的に捉えられることも、それはそれで受け入れる寛容さ。

のめり込んだレゲエの場づくりから、家具・内装を経て建築やまちづくりへとつながるシームレスな活動領域。

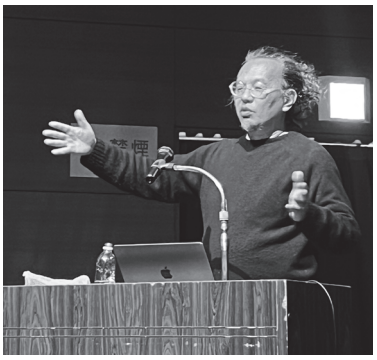
国内外の大小様々なプロジェクトごとに繰り広げられるストーリーは、「長坂常」という一個人からの複眼的思考から、その場が新たな息吹を吹き込まれていく様です。

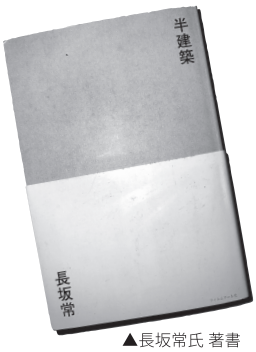
「見えない開発」の話の際、“いらないよね→変えなくていいよね”というくだりは、“つくる”ことだけを考えて、“つくらない”ことを考えない時代のことを思い出していました。バブル期に学生時代を過ごした私にとって、過剰につくられていく饒舌な、もしくは空疎な建築群に対しては、辟易とした思いを抱かずにはいられませんでした。その頃からは社会情勢も変わり、建築界も様々な変遷を経たいま、依頼するクライアントと長坂氏とのやり取りを聞くと、ようやく生活者の視点に戻って交わされている理想的な姿のように感じられました。

「JIA三重 建築文化講演会」は、1988年に始まり、今回で第37回目を迎えました。当日の来場者には過去の講師一覧が配布されましたが、その顔触れは、それぞれの時代としての視点と、地方都市での生活者としての視点が同時に反映された選定となっているようにも感じられます。こうした場が、地域内外の建築関係者や将来を担う学生達にとって、有意義な場であって欲しと思います。

講演の様子

▲会場の様子


▲長坂常 氏



▲長坂常氏 著書

▲文化講演会2024 リーフレット

久安 典之 （JIA三重）
久安典之建築研究所